

第4回池田町義務教育のあり方検討委員会 会議録（概要）

日 時	令和7年4月16日（水） 午後6時～午後7時30分
場 所	池田町役場2階 大会議室
出席委員	委員長 池田園小運営協議会代表 梅牧 力 副委員長 高瀬中運営協議会代表 宮本 和紀 池田小学校 PTA 代表 皆川 瑞穂、会染小学校 PTA 代表 栗林 絵美 高瀬中学校 PTA 代表 藤井 周二 池田保育園保護者代表 貝梅 直輝 池田小学校長 工藤 美恵、高瀬中学校長 原 毅 識見を有する者 村瀬 公胤、下川 威、丸山 史子 公募による者 佐藤 豊、平林 利香子、丸山 尚子 池田町社会福祉協議会会長 中嶋 一光
欠席委員	会染小学校長 池内 博、会染園小運営協議会代表 櫻井 康人
事務局	教育長 山崎 晃、学校保育課長 井口 博貴 学校保育課学校保育係長 高木 さおり 学校保育課学校保育係 丸山 智史
書 記	学校保育課学校保育係長
傍 聴	4人

1 開会

2 委員長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 委員の委嘱

役員改正により

会染小学校 PTA 代表 山本一喜から栗林絵美に変更

会染小学校校長 葭本直樹から池内博に変更

池田保育園保護者代表 矢口正紘から貝梅直輝に変更

自治会協議会会長、自治会協議会副会長は4/21に決定

5 協議

アンケート結果について山崎教育長より説明

(1) 第3回検討委員会でのグループ協議について

(2) 保護者・児童生徒・職員アンケート結果について

(山崎教育長)

前回課題に対する対応についてグループ協議を行い一覧にしてある。本日は対応策を中心に説明させていただく。

質疑応答

(皆川委員)

教育大綱を子どもが理解していない。子どもや保護者に伝わるような共通認識のベースを作る試みが必要。その上でまず、政治的な部分でアプローチが必要では。

(平林委員)

新しく参加された方もいるので、この会の目的を明確にしてから進めた方がよいのでは。
(山崎教育長)

会の目的という意見がでたので、要綱の内容を読み上げる。全国的に少子化が進行する中、池田町でも小中学校の児童生徒数の急激な減少が続いている。池田町では、第二次教育大綱を据えて6年目を迎え、子どもがまんなかを合言葉に保小中 15 年プランを掲げ、子どもの主体性を大切にしたい学校づくりを進めてきた。このような中で、地域に根ざした池田町らしい教育環境が今後も展開され、将来にわたり子どもたちが主体的に学び合う場とするためには、どのような学校がよいか、子どもたちの未来のため、今から考えていくべき課題と考える。そこで地域や保護者の皆さんと一緒にこれからの時代の教育に対応した、よりよい教育環境を考えるため、義務教育のあり方検討委員会を設置する。

(丸山尚子委員)

フリー記述は重複する内容も多々あると思う。フリー記述の回答と委員が洗い出してきた対応策の項目をある程度まとめて進めていくという理解でよいか。

(梅牧委員長)

アンケートのフリー項目は膨大な量になる。その中から全部取り上げて検討していくことはこの委員会では無理。本来学校で進めていく内容というのは多々あり、もう少し焦点づけて、検討していかないといけない。学校でも、町でも対応が難しい部分がある。数が現実的に出てきている中で、その数にいかに対応していくか。皆さんの意見を聞きながらこの委員会で何を焦点として協議をしていくか意見をいただきたい、教育大綱についても意見をいただいてもよいと思う。

(丸山尚子委員)

教員のアンケートの関係では、どのような質の学びを追求していくかという意見が興味深く、その辺のどこについて話し合っていくのかがポイントになるかと思う。

(皆川委員)

設問2の1学級当たりの児童生徒数についてどう考えているか。あと、4の児童生徒1学年あたりの学級数についてどう考えるかとか。この辺について数のことを先生がどう捉えているか。先生のやり易さを反映する意味では、これは無視できないのでは。

保護者の方だと、児童数、生徒数がちょうどいいと言う人が結構多い。しかし先生は1学級当たり児童数がもうちょっと少ない方がいいと感じており、また今適当と考えたと答えた先生がどの学年で何人担当しているかによると思うが、先生としては、一人一人を見るのに理想的な数があるというのをここで感じた。私は個人的には人数が少なければ縦割りの学級でやってほしい、それが一番現実的だと思う。先生がどこに注目しているかとか、やりやすさについて数値的なものもある程度必要かなと感じている。

(梅牧委員長)

アンケートの方に話が進んでいますので、アンケートの方の説明も併せてしてもらってよろしいか。

(山崎教育長)

2回のグループワークで話し合っていたことからアンケートの内容をリンクして話をしたいと思っています。アンケートについて、事前にお渡しした資料に一部不備があり、差し替えの資料が2つある。

[アンケート結果の修正、追加の資料について山崎教育長より説明]

(皆川委員)

アンケートの集計は難しいと思うが、誰が、どのスタンスの人が、どういう立場で意見を言っているのか分からないフリー回答があったりするので、属性がわかるようにしてほしい。そうしたらアンケートを参考に情報整理ができると思う。保護者と教職員の方の意見の違いについてなど、ポイントを絞って示してもらった方が分かりやすい。保護者の意見をどう扱っていくかという方向性を示しながらやっていくことがいいと思う。

(梅牧委員長)

個々の意見がそこまで必要か、率直に疑問。

(皆川委員)

これを見て、親が何を大切に思っているかが私にはよく見えたと思った。保護者としては、子どもたちが自分たちの学校の文化や伝統みたいなものを、縦割りの組織の中で共有しながら受け継いでいく大切さを重視している人がいっぱいいるなと感じた。町の政策というか教育大綱にも十分リンクする。個々の意見の中にヒントは隠れているということは、共有した方がよいと思った。

(梅牧委員長)

他の方のご意見は。

(村瀬委員)

池田の歴史をつなぎ、池田小学校の文化を残していきたいという意見もあり、そういう意味で、今回のアンケートと、これまで本委員会でグループ討議してきた内容には共通点がある。それがこの会で進めていくひとつのよりどころにもなると思う。そこで個別の意見を拾うということでもなく、「その他の意見」に含まれる内容を「今のままがよい」「多い方がよい」「少ないほうがよい」という3つのグループに分けて示すことはしてよいと思う。

(佐藤委員)

委員会の一つの糸口として、アンケートを取って私達の考えと合っているかどうかとかそういう切り口でやった方がちょっと前に行くかと思う。

(梅牧委員長)

今回のアンケートは Google フォームでやったこともあり、自由記述が大量で、まとめが難しい部分もあるが、我々が検討している部分と関連するものがあると感じた。

(皆川委員)

教職員アンケートと、このあり方検討委員会ですっと話されている先生への懸念事項がリンクしているところはあると思う。先生方は1学級あたりの児童生徒数についてもっと少ない方がよく、複数の学級があり、人数が少なめが理想的なイメージを持っていると感じた。

また、先生方の中にも教育大綱の理念があまり根付いてない先生もいることも気になった。先生方にも教育大綱を知っていただいた方がいいと思うので、町の中でもそういった取り組みをしていただけたらと感じた。

(梅牧委員長)

アンケートの中でざっくりとこの方向でという意見も出てきますが、それを含めてちょっと意見いただければ。

(皆川委員)

同じような意見が多いが、支援について手厚くしてもらいたいと心配する保護者の意見があった。今までの議論の中に出てきていない意見だったので、私たちの中に落とし込んだ方がよいと思った。

(梅牧委員長)

確かにコピペしたのではないかという文章もあったが、兄弟がいて学年が違えば同じ意見が出ることもあると思う。

(丸山尚子委員)

皆川さんのいうインクルーシブについてあまりその視点がなかったと思うので、話し合ってもよいかと。

(梅牧委員長)

インクルーシブ教育は難しい部分もある。極端に言うと特別支援学級がないので、保育園はインクルーシブ教育。ただ縦割りまで入れたインクルーシブ教育についてここで議論するのは難しいところもある。

(皆川委員)

今までこの会議で話してきたことと、このアンケートをリンクさせて、共通することや、落とされている部分を見つけて今二つ提示した。インクルージョンに関しては、例えば、お子さんがみんなと一緒に教室でやれなくて悲しんでいるという意見を読んで、そう感じている子どもがいると思った。

中学校になると離されることを今心配している6年生の保護者もいる。誰が悪いというわけではないが、子どもがそう感じていると思う。教育大綱にどう書いてあると立ち戻ると、今の状況とのすり合わせはすごく難しいと感じる。この場でもその地点に戻りながら議論しないと大事なことを見失ってしまうのではないかな。なので、梅牧先生が今おっしゃった「今その話をするときじゃない」というのであれば、方向性を示していただけるとありがたい。

(梅牧委員長)

令和7年度の児童生徒推計調査票を見ていただければ、両小学校の1年生を合わせても13年度の1年生は19人で単級にしかない。保護者とすれば多様な子どもたちに接して育てたい、一方で先生方は少人数でいけば、1年生は8人。2桁ない人数になる。人数が減少する中でどうやって池田町の学校運営をやっていくかを正面から議論しなければいけないと思う。

(皆川委員)

学校制度的に問題があるとおっしゃっていたが、公立の学校でイエナプラン教育をやっているところがある。そういう部分とのブレイクスルーがあるのか教えていただけるとありがたい。

(村瀬委員)

こういった会議をするときに先程から方向性を出してほしいとか、あるいはどうリンクするかという話があるが、何か終着点のドラフトがあった方がいいと思っている。例えば、私は研究とか論文書くとき先に目次を考える。この会議は何らかの形の報告書で、教育長に返すのがお役目だと思うが、今のまま意見が飛び交ってしまうと難しい部分もある。

(梅牧委員長)

私も今のままでは報告が難しいと考えている。ただ、南木曾や小谷の例もあるが、統合するもしないも別にして、いろんなところで意見をいただいていくのは大事だと思う。報告書の目次をどうしていくか、村瀬委員からよい意見をいただいた。AI を使って要約をする方法もある。たたき台を作ったほうがよいのではないか。

(皆川委員)

個人的にはたたき台はこの人数の多いとこでやるより、もう少し小単位またはご担当の先生方でたたき台を持ってきていただき、こっちで精査する方が現実的だと思う。

子どもの人数が少なくなることは、この会議の大きな柱と私も自覚している。1 学年の人数の話になるが、学校トータルの話をしていないのが少し気になる。縦割りができないかと思うが、公立学校としてどうやってその制度をくぐり抜けられるのか、専門的な説明をいただけると助かる。

(工藤校長)

可能であれば、次回このアンケートから各保護者が各学校に大事にしてほしいと思っていることをピックアップしてまとめてほしい。その上で、例えば再編せず現状維持で行った場合、人数がこの十何人まで減ってしまうので、そのことも加味した上で、今の学校数を維持するメリットとデメリットをこのアンケートから拾ってきて、この委員会として素案としてこう考えるというものと、逆に再編をした場合、会染小学校と池田小学校を統合する場合のメリット、デメリット。または義務教育学校の小中を一緒にしたときのメリット、デメリット。そして、こんなことができるとまとめられたものがアンケート結果として示されて、参考としてこのデータが示されると、こちらの討論の方向性が見えてくるのかなというところがある。分析が大変なら AI が使えるので声をかけてほしい。

(丸山尚子委員)

今義務教育学校は、パターンがいくつかあると思うので、そのパターンに沿ってタグ付けしてアンケートを集計し、拾っていくことができれば考えやすいと思う。

(工藤校長)

その上で共通基盤に立って議論をしていくは一つの方向性かと感じた。

(丸山尚子委員)

インクルーシブも入れてもらえるとすごくよいと思う。

(皆川委員)

今の工藤先生がおっしゃった方向性は、答申に間に合うという前提のもと、先生方の方で一旦方向性としてまとめたものを次の会議とかで諮っていただくというイメージで合っているか。

(村瀬委員)

技術的には可能だと思うが、どなたがやるのか、AI は使い方もある。

(山崎教育長)

色々と混乱を招いてしまって申し訳ない、ある程度焦点化された意見になってきたので、どこまでできるかわからないが検討する。もし必要であれば去年部会を一応立ち上げているので、可能であれば部会にけることも検討する。

(丸山尚子委員)

部会はやりたいっていう人がいればメンバー限定に固執せずにやればよいと思う。

(山崎教育長)

できるかわからないが、部会をやるとしたら、こちらでメンバーを選ばせていただく形で進めたい。

6 連絡 次回、第5回検討委員会は6月26日(木)18時より池田役場大会議室で開催する。

7 閉会